

# 新山協ニュース

△ 発行者 平田大六      △ 発行所 新潟県山岳協会  
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方      TEL025-222-9548



チュエルダック小屋 標高950m  
ここにヘリポートがある。

## ロシア連邦カムチャッカ州 トルバチェク峰 (3682m) 登頂報告

五十嵐 篤 雄

カムチャッカ州は日本本土の1・7倍の広さを持つ半島で、北緯51度から62度の北に位置し、私の感覚では永久凍土で不毛の地と思っていたが、緑豊かな広葉樹林帯の中に集落があり緑の農地が点在している明るい国であった。

火山は160座位あるといわれている。そのうち28座が現在も噴煙している活火山で、入国の難しさもあって邦人未踏峰の活火山を除いて10座程で今回はその最高峰のトルバチェク峰を選んだ。

計画にあたっては通商産業

政務次官、参議

院議員真嶋一男

先生の協力によ

り、日ロ交流親

善のもとにロシ

ア領事館の全面

的支援を受け、

新潟県山岳協会

トルバチェク峰

登山隊を組織し

た。

名誉総隊長長真

嶋一男、隊長室

賀輝男、隊員五

十嵐篤雄、石田

国夫、大橋栄蔵、

小倉厚、加藤明

文、加藤代子、

### 新年会案内

日時 1996年1月28日(日)  
12時開宴  
会場 新潟市 イタリア軒  
会費 10,000円  
申込 〒951  
新潟市下旭町109  
鈴木敏雄方  
新潟県山岳協会  
ハガキにて申込願います。

### 理事会開催案内

新年会に先立ち同会場にて、  
理事会を開催します。  
役員、理事、委員各位は10時  
30分までに参集願います。

鈴木敏雄、内藤修、中村千代一、藤井信、本間一人、望月力。

6月7月の季節ならば我々の登山技術と経験から登頂が加能であると判断して、隊員の休暇の限度を考慮し登山活動11日間を第一目標とし最悪の場合も想定し、3日〜5日間の予備日をみて計画を策定した。

### 登山行動のあらまし

6月23日(金)曇り、新潟空港15時30分SU812便でハバロフスクに向かう。

ハバロフスク着19時20分(時差2時間)、バスで今夜の宿ホテルアメジエストに向かう。アムール河のほとりにで

きた坂の多い街で、道幅が広くポプラと思しき巨木の街路樹が連なり、その間に煉瓦造りの建物が時折見え緑豊かな街である。ホテルまでの道中、歩行者は多いが自転車も一台も見なかった。

6月24日(土)晴れ、午前中市内観光。16時シベリア原野の上空を飛行、濃霧のため下界は目見えなかった。カムチャッカの主都ペトロパブロフスク着18時30分、バスにて今夜の宿ゲゼルホテルに向かう。

6月25日(日)曇り時々小雨。ペトロパブロフスクからトルバチェク峰のベイスキャンプまで、ヘリコプターで行く予定が濃霧のため飛行不能。午後市内観光。



6月26日(月)曇り時々小雨。11時ワゴン車でヘリポートのあるエリゾパー市に向かう。ヘリポート着11時40分。トルバチエク峰方面は雲が厚く今のところフライトはできない。暫く待て、というこことである。望みを捨てず16時30分まで待ったが遂にフライト断念、ワゴン車でゲゼルホテルに戻る。

今日は隊員紅一点の加藤記代子さんの誕生日、20時30分、望月隊員のハーモニカの伴奏でハッピーバースデーの歌を全員合唱、おめでとうございます。50歳代と思われる体格のいい食堂の小母さんマルガリータさんも一緒にウォッカで乾杯し祝ってくれた。ロシアの演歌であろう、彼女のボリュームのあるアルトの歌声は部屋中に響き渡り、皆んなを魅了させ、楽しい誕生祝いであった。

6月27日(火)霧深し、ホテルの窓越しから見ると昨日と同じように厚い雲に覆われている。今日も駄目か、みんなの顔は暗い。

12時30分ゲゼルホテル出発。ヘリポート13時10分着。パイロットらしき人と通訳が

真剣な顔つきで暫く会話が続くと、やがて通訳が、にこにこしながら私達に近づいてきた。「フライトOK」

エリゾパー市のヘリポートからトルバチエク峰のベースキャンプまで約300キロ、飛行時間2時間、つまり時速150キロということになる。20人乗りのヘリコプターに私達13人、ロシアのスタッフ通訳も含め6人、その他パイロットの家族2人、21名の乗客、14時15分待望のフライトとなる。

カムチャッカ半島は日本国土の1.7倍の広さと聞く。トルバチエク峰は半島のいカムチャッカ讃歌 ②

ベースキャンプは  
月面輸送車の訓練場  
日本山岳会会員 小 倉 厚

真剣な顔つきで暫く会話が続くと、やがて通訳が、にこにこしながら私達に近づいてきた。「フライトOK」

エリゾパー市のヘリポートからトルバチエク峰のベースキャンプまで約300キロ、飛行時間2時間、つまり時速150キロということになる。20人乗りのヘリコプターに私達13人、ロシアのスタッフ通訳も含め6人、その他パイロットの家族2人、21名の乗客、14時15分待望のフライトとなる。

カムチャッカ半島は日本国土の1.7倍の広さと聞く。トルバチエク峰は半島のいカムチャッカ讃歌 ②

ベースキャンプは  
月面輸送車の訓練場  
日本山岳会会員 小 倉 厚

山中の広葉樹林帯を抜ける  
と更に視界が広がる。エメラ  
ルド色にちりばめられた幾多  
の湖沼、清流あり濁流あり、  
曲流あり直流あり、はたまた  
大河あり小川ありの河川、原  
始の針葉樹林の広がり、点在  
する原住民の民家、それらは  
あたかも天女の遊ぶ庭園のよ  
うに見えた。東西の山脈は雪  
と氷河を抱いて燦めき、こん  
なのがカムチャッカ色とでも  
言うのだろうか、筆舌を超え  
て美しい。広大、無辺、日本  
本土の1.7倍だという。

しかし、山が近づくにつれて天候がややしくなってきた。目指すベースキャンプへの着陸

は難しいようだ。カムチャッカは低気圧の墓場とも言われる。山が急激に迫り、ますます霧が濃くなったが、パイロットは火山(クロナスキー火山)の頂に降りるサーピスを試みた。一瞬機体が止まり、月面に似た噴火口が並んでいるのが識別できた。

だが、目指すベースキャンプへの着陸は断念。午後4時35分、モーター・チェルダックに到着。チェルダックとは最も高いところにある建物の意だという。ここで遅い昼食。カムチャッカ特有の巨大な蚊におそわれた。

ベースキャンプまではあと6キロ。我々はこれからも超大型6輪、ロシア海軍払い下げのトラックの力を借りた。

ベースキャンプは  
月面輸送車の訓練場  
日本山岳会会員 小 倉 厚

州都ベトロパブロフスクカムチャッカキー(エリゾパー)から300キロ、最高峰クリチエフスカヤの南24キロのトルバチエクBCへの道は遠かった。

飛行時間1時間半余、そしてまた1時間半のトラックの旅、なんとかその日のうちにBC入りを果たした。

旧ソ連時代、あたりの地形に限りなく月面に近いところから、宇宙開発に当たって、月面輸送車の訓練場とされたという。そのため地名は「月の車」と率直につけられている。荒涼たる溶岩の高原。標高は1200メートル。あたり一面、カムチャッカヒゲマの糞と不気味な足跡。そして点々と咲く美しいリシリヒナ

飛行時間1時間半余、そしてまた1時間半のトラックの旅、なんとかその日のうちにBC入りを果たした。

旧ソ連時代、あたりの地形に限りなく月面に近いところから、宇宙開発に当たって、月面輸送車の訓練場とされたという。そのため地名は「月の車」と率直につけられている。荒涼たる溶岩の高原。標高は1200メートル。あたり一面、カムチャッカヒゲマの糞と不気味な足跡。そして点々と咲く美しいリシリヒナ





ゲシの花が対照的だった。ヒマラヤにはブルーポピーがあるが、ここカムチャッカはこのイエロー&レッドポピーが無心に風に揺れていた。昨年10月、偶然にもアメリカの宇宙飛行士の訓練場になったという、ハワイ・オアフ島のハレヤカラ火山原を見る機会があった。こも限りなく月面に近い。米ソの宇宙競争の現場をこんな形で対比して見ることができたのは、まことに幸運と言うべきだろう。

### 第50回ふくしま国体

#### 山岳競技あと一歩で入賞

国体委員長 森 庄 一

11月14日から18日まで福島県南会津五町村で開催された国体山岳競技で、本県成年男子選手団は総合22位と昨年成績を大きく上回る結果を出した。踏査(16位)・登攀競技(13位)ではあと一歩で入賞を逸した。

14日は開始式、県山協旗を先頭に威風堂々の入場行進であった。

15日縦走競技、B隊23チーム中17位でゴールす。最終日

BC着8時20分、ロシア側隊員の大歓迎。紅一点のK夫人は女性隊員と、もはや百年の知己のようだ。気温は思ったより寒くなく、白夜の国はいつまでたっても明るい。山小屋としては床も立派な板張り、二階建て、我々は一階の部屋に入ったが、30畳ぐらいで13名では広々として清潔、中央にはなつかしいようなストーブがあった。

(長岡新聞より転載)

18日表彰式、選手団退場時心なしか肩が落ちていた。

監督・小田幸男、選手・中山友博・瀬智誠・富樫秀吉の皆さん大変お疲れ様でした。

合宿から大会当日まで現地応援と資金援助をしてくださった皆さん大変ありがとうございました。

#### 山岳競技成年男子表彰

順位	県名
1	福島県
2	山口県
3	愛知県
4	岩手県
5	広島県
6	栃木県
7	群馬県
8	東京都

### 第50回福島国体観戦記

長岡ハイキングクラブ

杉 本 敏

伊南村からもう少しで檜枝岐村に入る国道352号線脇、蟹沢広場から縦走競技T1がスタートする。標高差1050m位を選手は65分前後で登りきる。負荷重量は3名で35kgとアナウンスしている。早くから出発間際までウォーミングアップを繰り返す選手。しっかりと自分達の出発何分前から動き出す選手。檜枝岐川の谷間は昨日からの晴天続きで冷え込み、選手のアップにも力が入る。スタート時間は8時30分より各チーム1分間隔で出発する。上を見上げれば、ナラ、楓を中心に紅葉の

真盛りで、その上は青空が選手達の健闘を祈り、早く登って来いと待ち構えている。山岳競技はPR不足か、絵にならないのか、報道機関、新聞、テレビ局関係者の姿はない。通常の日にその内容が報道されることはほとんど無い。優秀な成績を上げれば、その結果が報道される程度の扱いである。

三ツ岩岳へのT1スタート場に地元の人々の応援姿はほとんどない。選手団・役員と元選手の応援組、各県協会役員、視察員、地元出身選手の郷土からの応援団といった人数で

競技が順調に進行して行く。最後のチームが出発すると残るのは役員と監督のみの寂しい会場になってしまう。

なぜ山頂特区ゴール地点の模様を、スタートやゴール地点で放映しないのだろうか。必死の形相で、各県の榮譽を担ってゴールする選手の姿は、皆が感動するし、拍手も画面の前で沸き上がることだろう。テレビ局だって血の通った人々の世界。きっと協力体制を敷いてくれるだろう。帰れば労苦に対して慰労の話も点数に関係なく発せられるだろう。

報われない選手達の淋しさは、大会運営者の責任である。出発のマイクは2本使った方がよい。コールのマイクと各県チームの選手団紹介のマイク。1分間の中に納めるのは大変なことだが、登はんは紹介している。縦走も工夫すべきである。

縦走競技の出発を見送り、帰りの国道252号線の交通規制に間に合うよう帰路につき。途中南郷村登はん競技を見学する。

2名の選手が30mの垂直な人工壁を13分以内で登る。成年男子は上部でオーバーハン



グになつてゐる。応援スタンド、駐車場ありで、見学者や応援する人達には便利である。

競技点・減点などは競技終了後直ぐに放送が流れる。確定した点である。けれどおかし

しいのは時間点である。80点分をいつまでも発表しないでおくのが競技をつまらなくしている。競技終了後今何点の仮発表はできると思う。上位

チームが新たに誕生した場合、順位と点数を入れ換えて行けば良いではないか。何日何時何分何チームまでの途中経過表示をしつかりすれば、応援

チームに対しても熱が入るといふものだ。そうでなければ満点になる基準時間を設定して、その時間内に入れば80点にする。この方法で即座に点数が表示できる競技に移行すれば、もっと理解者が増えてゆくとおもう。

競技の終了方法も今後工夫する必要がある。完登したチームの取り扱いである。セカンドが競技終了した時点で、自ら時計の進行を止めるボタンを押す方法を採用するなど一考あつてもよい。

踏査競技は秘密的で立入禁止まで設定して運営されてい

る。これではだれも理解しないだろう。身内の競技にうのぼれているようでは、山岳競技の発展性は見えない。

競技の公開と普及は、競技者だけでなく、一般者にも理解

わがクラブ ⑬

塩沢山岳会

熊木貞夫

会員は19人。設立は昭和36年7月11日制定の「会則」があるから、その頃の話だろう。上田、中之島地区(昭和30年代、町村合併によって旧町村名は「地区」名でよばれるようになった)にも、それぞれ

山岳会は活動していたが、寄り合つて現在の塩沢山岳会となったと記憶している。その会則だが、恐る恐る読んでみると、2項に「本会は、塩沢町に存在の山岳を憧憬する同志をもつて組織し、登山を通じ、相互に技術を高め、心身を鍛練し、人間性の探求を目的とするため各種の事業を行う。」などと空恐ろしく、むずかしい言語が並んでいる。「勘弁してくれろ、俺は山へいけなくなつちまう」と不埒者はつぶやいたが、これは創

できるような体制作り、ルールの改革が必要なのではないだろうか。長年選手の顔ぶれが変わらない今の国体の改革改変は緊急の課題とおもう。

立期特有の高揚した気負いと

して各自胆底にとどめ、だからとやがてどこの国での憲法論議を真似て、改正しようなどと毛程も考えていない。全日本登山大会、新潟国体、

越後の国境踏査、県境全縦走等、当時は山には活気がみなぎっていたと思う。設立10周年を記念して、山小屋建設を画した。そして一等三角点割引岳1930・9メートル、牧之の北越雪譜にいう「破れ目き」清水の人達が呼びならわす「クロツブレ」の巍々とした屹立峰を、沢を通して朝夕遙かに望む巻機山聖平に、ひと夏かけてささやかな山小屋を自前で建てて活動の拠点とした。

デンワ、ヒクカ? ヤメロ、バカ! 喧々囂々。幸か不幸か。

意気揚々と帰ってきた。昭和48年のことである。山行は、年初の事業計画で決まる。近年、山の魅力をおクサン・コードモタチにも知ってもらおうとてんで、家族ともども参加する家族登山を取り入れて、あちこち歩いてい

るのだが、敵もさるもの、不倫を見つげるより簡単に男共の魂胆を見抜いているのだ。ナニヨ、コンナコトデ、ゴマカサレハシナイワヨッ! 気の弱い男共は立つ瀬がない。

中世末期から近世以来、巻機山群は修験を中心に信仰されてきたのは承知の通りで、証跡はいまに尚、引き継がれて色濃く残っている。中越の山でも開発が入らない数少ない山岳である。それにしても、この巻機山域で、遭難事故が例年になく多発している。

長岡山岳会が創立50周年を迎え、記念事業の一環として、50周年記念会報14号を発行し

迎え、記念事業の一環として、50周年記念会報14号を発行し

迎え、記念事業の一環として、50周年記念会報14号を発行し

刊行物紹介

長岡山岳会が創立50周年を迎え、記念事業の一環として、50周年記念会報14号を発行し

**登山用品専門店**

— 信頼できるパートナー —

**大新スポーツ**

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736

ました。

B5版で91頁からなり、会員の山行文、会の50年に渡る歴史ある文、冬山、岩登り、地域山行など内容ある文章が納められています。他に会の近年における主要山行報告と会員名簿が載っています。

購読を希望される方は、送料含めての1500円を左記へ送れば手元に記念誌が届きます。

〒940  
長岡市学校町3ノ3ノ25  
大橋一夫 宛  
☎0258(32)5861